

平成 30 年度

事業報告書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

学校法人 安田学園

目 次

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地	
(1) 安東キャンパス	1
(2) 白島キャンパス	1
2. 沿革	2
3. 組織図	
(1) 学校機構図	4
(2) 事務組織図	5
4. 設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数	6
5. 役員、教職員数	7

II. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業	
(1) 安田女子大学・安田女子短期大学	8
(2) 安田女子高等学校・安田女子中学校	14
(3) 安田小学校	18
(4) 安田女子大学附属幼稚園	22
(5) 安田女子短期大学附属幼稚園	26

III. 財務の概要

1. 資金収支計算書の推移	29
2. 事業活動収支計算書の推移	30
3. 貸借対照表の推移	31
4. 貸借対照表関係比率の推移	32
5. 事業活動収支計算書関係比率の推移	32
6. 在学生数・教職員数の推移	32
7. 5年間の財務 経年比較表	33

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地

(1) 安東キャンパス
 広島市安佐南区安東6丁目13番1号

学 校 名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備 考
安田女子大学	大学院 文学研究科 博士前期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 教育学・心理学コース 臨床心理学コース	平成6年度	心理学科から名称変更
	博士後期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻	平成8年度	
	家政学研究科 修士課程 健康生活学専攻	平成25年度	
	薬学研究科 博士課程 薬学専攻	平成25年度	
	看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻 博士後期課程 看護学専攻	平成30年度	
	文学部 日本文学科	昭和41年度	
	書道学科	平成23年度	
	英語英米文学科	昭和41年度	
	教育学部 児童教育学科	平成24年度	
	心理学部 現代心理学科	平成30年度	
	ビジネス心理学科	平成30年度	
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	平成15年度	
	国際観光ビジネス学科	平成27年度	
	家政学部 生活デザイン学科 管理栄養学科	平成16年度 平成16年度	
	造形デザイン学科	平成28年度	
	薬学部 薬学科 看護学部 看護学科	平成19年度 平成26年度	
安田女子短期大学	保育科	昭和30年度	
安田女子大学附属幼稚園		昭和56年度	

(2) 白島キャンパス
 広島市中区白島北町1番41号 (小学校・中学校・高等学校)
 広島市中区白島中町2番25号 (幼稚園)

学 校 名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備 考
安田女子高等学校	全日制課程 普通科	昭和23年度	
安田女子中学校		昭和22年度	
安田小学校		昭和31年度	
安田女子短期大学附属幼稚園		昭和28年度	

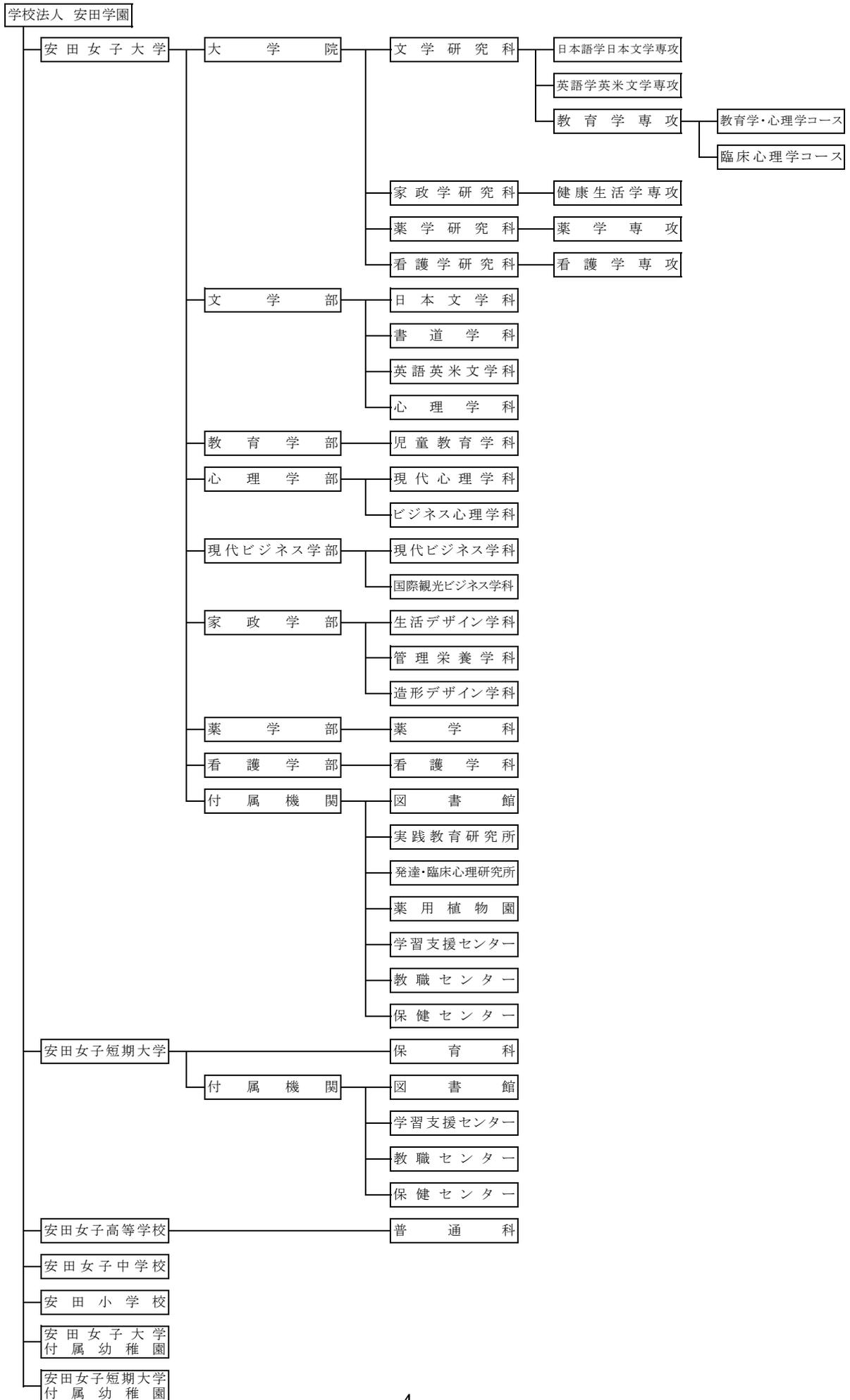
2. 沿革

大正	4年	(1915)	1月	広島技芸女学校開校の開設認可を広島県知事より受ける	
			4月	各種学校令による広島技芸女学校開校（広島市中島本町）	
	6年	(1917)	10月	校地を広島市基町（現西白島町）に移す	
	7年	(1918)	4月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称 実業学校令による広島技芸女学校開校	
	9年	(1920)	4月	広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格 安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復す	
	11年	(1922)	4月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校	
	昭和	2年	(1927)	8月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称（昭和20年3月まで存続）
		3年	(1928)	8月	安田高等女学校を財団法人安田高等女学校に改組
		5年	(1930)	5月	広島女子教員養成所開所
		19年	(1944)	3月	広島女子教員養成所廃止
				5月	安田高等女学校内に保育所併設（昭和20年3月まで）
20年		(1945)	8月	原子爆弾のため職員13名、生徒315名死亡 校舎全壊 終戦	
			12月	校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年1月本格的復興工事開始	
21年		(1946)	4月	安田高等女学校5年制となる	
22年		(1947)	4月	学制改革により安田女子中学校を開校 広島Y・D・Mカレッジ開校	
23年		(1948)	5月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校	
26年		(1951)	3月	学校法人安田学園へ組織を変更	
			4月	広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校（昭和28年3月まで）	
28年		(1953)	4月	安田学園幼稚園教員養成所を開所	
			6月	昭和27年5月開園した安田保育園を廃止し、安田幼稚園を開園	
30年		(1955)	4月	安田女子短期大学保育科開学	
31年		(1956)	3月	安田学園幼稚園教員養成所廃止	
			4月	安田小学校開校 安田幼稚園を安田女子短期大学附属幼稚園と改称	
36年		(1961)	4月	短期大学に家政科開設	
40年		(1965)	3月	広島Y・D・Mカレッジ廃止	
41年	(1966)	4月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科が安東校地に開学		
42年	(1967)	9月	短期大学を白島校地より安東校地に移転		
50年	(1975)	4月	大学文学部に児童教育学科開設		
56年	(1981)	4月	安田女子大学附属幼稚園を安東校地に開園		
59年	(1984)	4月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更		
63年	(1988)	4月	短期大学に秘書科開設		
平成	3年	(1991)	4月	短期大学家政科を生活科学科に名称変更	
	6年	(1994)	4月	大学に大学院文学研究科修士課程日本語学日本文学専攻、英語学英米文学専攻、教育学専攻開設	
	8年	(1996)	4月	大学院文学研究科に博士後期課程を開設	
	10年	(1998)	4月	大学文学部に人間科学科を開設	
	14年	(2002)	4月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の2専攻に分割	
	15年	(2003)	4月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を開設	
	16年	(2004)	4月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を開設 大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科は学生募集停止 短期大学生活科学科は学生募集停止	
	17年	(2005)	3月	短期大学生活科学科を廃止	

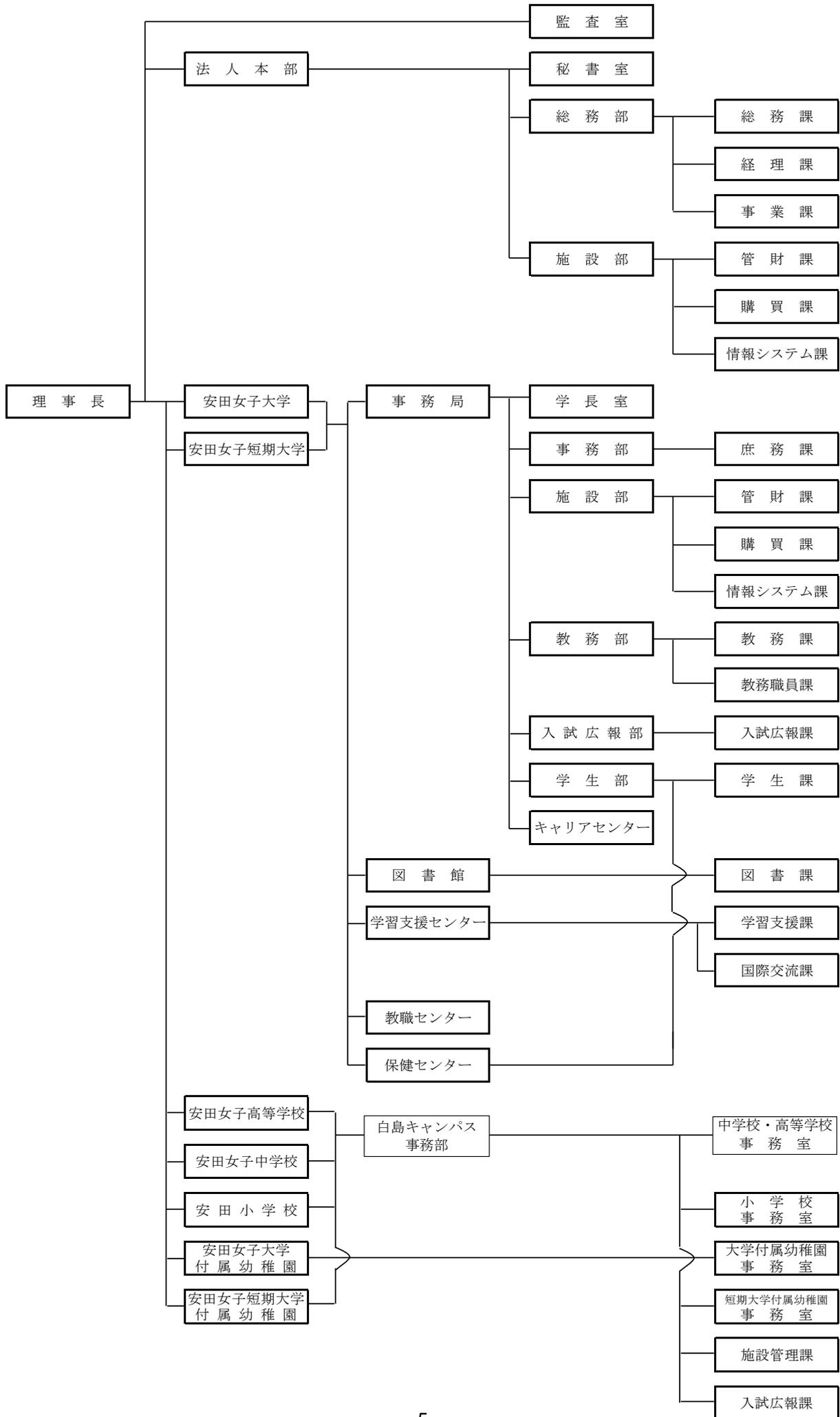
- 19年 (2007) 4月 大学に薬学部薬学科 (6年制) を開設
9月 大学文学部人間科学科を廃止
- 23年 (2011) 4月 大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科日本文学専攻は学生募集停止
大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書道文化専攻は学生募集停止
- 24年 (2012) 4月 大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童教育学科は学生募集停止
大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科は学生募集停止
- 25年 (2013) 4月 大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を開設
大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を開設
- 26年 (2014) 4月 大学に看護学部看護学科を開設
- 27年 (2015) 4月 大学に現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科を開設
短期大学秘書科は学生募集停止
- 27年 (2015) 3月 大学文学部児童教育学科を廃止
- 28年 (2016) 3月 短期大学秘書科を廃止
- 28年 (2016) 4月 大学に家政学部造形デザイン学科を開設
- 29年 (2017) 9月 大学文学部心理学科を廃止
- 30年 (2018) 4月 大学心理学部心理学科を現代心理学科に名称変更
大学に心理学部ビジネス心理学科を開設
大学院に看護学研究科博士前期課程看護学専攻を開設
大学院に看護学研究科博士後期課程看護学専攻を開設

3. 組織図

(1) 学校機構図



(2) 事務組織図



4. 設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

平成30年5月1日現在

設 置 学 校	入 学 員	編入学 定 員	収 容 員	在 生 数	備 考
安田女子大学					
大学院					
文学研究科					
博士前期課程	30	—	60	30	
博士後期課程	9	—	27	2	
家政学研究科 修士課程	3	—	6	1	平成25年度開設
薬学研究科 博士課程	2	—	8	1	平成25年度開設
看護学研究科					平成30年度開設
博士前期課程	10	—	10	3	
博士後期課程	3	—	3	2	
大学院計	57	—	114	39	
文学部					
日本文学科	90	1	362	379	
書道学科	30	1	122	113	
英語英米文学科	110	2	444	452	
文学部計	230	4	928	944	
教育学部					
児童教育学科	150	10	580	590	
教育学部計	150	10	580	590	
心理学部					
現代心理学科	60	2	334	366	平成30年度心理学科から名称変更
ビジネス心理学科	60	—	60	57	平成30年度開設
心理学部計	120	2	394	423	
現代ビジネス学部					
現代ビジネス学科	120	2	484	491	
国際観光ビジネス学科	60	1	242	274	平成27年度開設
現代ビジネス学部計	180	3	726	765	
家政学部					
生活デザイン学科	105	2	424	509	
管理栄養学科	120	—	480	460	
造形デザイン学科	80	—	240	193	平成28年度開設
家政学部計	305	2	1,144	1,162	
薬学部					
薬学科	120	—	720	561	
薬学部計	120	—	720	561	
看護学部					
看護学科	120	—	480	499	平成26年度開設
看護学部計	120	—	480	499	
学部計	1,225	21	4,972	4,944	
大学計	1,282	21	5,086	4,983	
安田女子短期大学					
保育科	150	—	300	260	
短大計	150	—	300	260	
安田女子高等学校					
全日制課程 普通科	270	—	810	785	
安田女子中学校	200	—	750	577	
安田小学校	80	—	480	487	
安田女子大学付属幼稚園	70	—	210	205	
安田女子短期大学付属幼稚園	60	—	200	197	
学 園 合 計			7,836	7,494	

5. 役員、教職員数

(1) 役員

理事 9 人（理事長 1 人含む）

<外部理事> 3 人

常勤・非常勤の別	任期	担当する職務内容や期待する役割等
非常勤	2018. 5. 25 ～ 2020. 5. 24	卒業生との連携
非常勤	2018. 5. 25 ～ 2020. 5. 24	外部情報の提供
非常勤	2017. 11. 11 ～ 2019. 11. 10	外部情報の提供

<内部理事> 6 人

常勤・非常勤の別	担当する職務内容	氏名	任期
常勤	理事長	安田裕実	2008. 4. 1
常勤	大学・短大長	瀬山敏雄	2016. 4. 1 ～ 2019. 3. 31
常勤	中学校・高校長	森 由美子	2015. 4. 1
常勤	大学補佐教授	澤田英三	2018. 5. 25 ～ 2020. 5. 24
常勤	大学・短大長 大 事務局長	栗栖孝明	2017. 11. 11 ～ 2019. 11. 10
常勤	常務理事長 法人本部長	宝嘉正博	2018. 5. 25 ～ 2020. 5. 24

監事 3 人

(2) 教職員

平成30年5月1日現在

区 分	教 員	事務職員	非常勤教員	兼務職員	計
安田女子大学	213	105	242	64	624
安田女子短期大学	10	5	16	5	36
安田女子高等学校	43	13	5	12	73
安田女子中学校	39	4	7	4	54
安田小学校	27	3	5	10	45
安田女子大学附属幼稚園	12	1	0	12	25
安田女子短期大学附属幼稚園	11	1	0	13	25
その他	0	2	0	4	6
学 園 合 計	355	134	275	124	888

Ⅱ. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1) 安田女子大学・安田女子短期大学

① 心理学部改組(学科新設、学科名称変更、収容定員増)

心理学科(入学定員90名、収容定員364名)から現代心理学科(入学定員60名、収容定員242名)に名称変更しました。

ビジネス心理学科(入学定員60名、収容定員242名)を設置しました。

看護学研究科看護学専攻

・博士前期課程(入学定員10名 修業年限2年 学位:修士[看護学])

・博士後期課程(入学定員3名 修業年限3年 学位:博士[看護学])を設置しました。

② 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の展開

「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学等に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援するものです。本学は2016年度に、タイプA(地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究)の事業で選定されました。

2018年度は、広島市教育委員会と連携して、本学の児童教育学科と英語英米文学科の学生及び現職小学校教員を対象に第1次研修を実施しました。事業概要は以下のとおりです。

◆事業名 :

小学校での英語教育を実質化する教員養成・研修システムの研究開発と展開

◆事業期間 :

4年(2016年度～2019年度)

◆事業概要 :

2020年度からの小学校での英語の教科化を見据えて、本学の児童教育学科と英語英米文学科の教員養成における協働モデルの開発、ならびに現職小学校教員と中学校教員の教員研修における協働モデルの開発をするものです。また、その中で、学生と現職教員が共に学び、本学ならびに海外で英語研修と指導法研修を行い、量的・質的方法で縦断的にその効果を検証します。なお、本学教職員に加え、広島市教育委員会とも連携し事業を推進していきます。

③ 広島市教育委員会と「小学校英語教育に関する連携協力協定」の締結をしました。

2018年7月30日(月)、広島市教育委員会と「小学校英語教育に関する連携協力協定」の締結式を開催しました。2020年度から小学校で英語が正式な教科となるのを前に、広島市教育委員会と本学がそれぞれ保有する英語教育に関わる教員養成・研修等に係る知識・情報を提供し合うことによって教員を希望する学生の養成や教員の研修等に寄与することを目的として連携協力協定を締結しました。

④ 学習支援課

2018年度の同センターの活動内容は、以下のとおりです。

A. 課外講座

開講、受講状況は、次のとおりです。

提供講座：39 講座 開講講座：26 講座 延べ受講者数：1,070 名

B. ボランティア活動

141 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 296 名の学生が参加しました。

C. 各種検定試験

学内で申し込みを受け付ける検定試験は「TOEIC®」「日本語検定」「日本漢字能力検定」「硬筆書写技能検定」「毛筆書写技能検定」「秘書検定」「日商簿記検定」です。秘書検定と日商簿記検定以外の検定については学内で試験を実施しています。これらの検定試験（日商簿記検定を除く）については、受験料の一部が安田女子大学後援会から補助されています。更に TOEIC®の 1 年生向けについては、大学が受験料の全額を負担しています。

2018年度の各検定試験の申込者数は、下表のとおりです。

(人)

検定試験	級	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回 海外研 修の事 前事後 用含む	1 年生 向け	合計
TOEIC®	—	345	250	427	418	1,239	2,679
日本語検定	2 級	3	7	—	—	—	10
	3 級	6	7	—	—	—	13
日本漢字能力 検定	2 級	37	32	8	—	—	77
	準 2 級	11	6	2	—	—	19
硬筆書写技能 検定試験	1 級	2	1	1	—	—	4
	準 1 級	4	3	1	—	—	8
	2 級	5	4	1	—	—	10
	準 2 級	1	2	0	—	—	3
	3 級	2	2	3	—	—	7
毛筆書写技能 検定試験	1 級	0	0	0	—	—	0
	準 1 級	1	2	0	—	—	3
	2 級	3	2	0	—	—	5
	準 2 級	1	1	0	—	—	2
	3 級	0	1	0	—	—	1
秘書検定	1 級	0	0	—	—	—	0
	準 1 級	5	11	—	—	—	16
	2 級	74	93	68	—	—	235
	3 級	8	5	6	—	—	19
日商簿記検定	2 級	6	10	18	—	—	34
	3 級	82	98	109	—	—	289

⑤ 保護者懇談会

保護者の方々に御来学いただき、教員との面談や施設見学の中で、安田女子大学・安田女子短期大学の教育等に御理解いただくことを目的とした保護者懇談会を実施しました。

2018年度は、通算第9回目の開催となり、9月29日(土)に開催しました。

なお、来場者数集計、保護者の評価は、以下のとおりです。

A. 来場者集計結果

- ・ 498名の保護者が来場され、303名が各学科個別懇談に参加されました。
- ・ 学科ごとの学生数に対する来場者比率は、薬学部保護者会を当日同時開催した薬学科が23.7%、次いで看護学科が21.3%、と高い参加率でした。続いて書道学科が10.7%、今年度開設したビジネス心理学科が10.5%でした。
- ・ 学年別では、1年生9.2%、2年生5.8%、3年生7.9%、4年生3.7%、薬学科5年生20.8%、同学科6年生は18.1%でした。昨年度と同様、入学したばかりの保護者の関心が高かったほか、就職活動を控えた3年生、薬学5、6年生の保護者の関心が高いことがうかがえる結果となりました。
- ・ 地域別では、広島県の48.6%に続き、山口県7.0%、島根県1.8%、福岡県1.8%、岡山県1.4%、愛媛県1.0%、鳥取県0.6%でした。
- ・ 過去に参加されたことがあるか(リピート率)についてアンケートを取ったところ、回答者のうち、55.5%が過去にも参加されていることがわかりました。

B. 保護者の評価

全体内容については、アンケートの3段階評価(よかった、どちらでもない、よくなかった)のうち「よかった」が94.0%と、昨年度と同様、高い評価を得ることができました。

開催時期に関しては、97.1%が「ちょうど良い」との回答結果を得ました。

⑥ 海外研修プログラム

本学では、外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために「海外研修プログラム」を実施し、単位認定をしています。

2018年度は、以下のプログラムを実施しました。

A. アメリカ/カナダ派遣6ヵ月留学(STAYS)16単位

対象： 大学文学部英語英米文学科2年生(参加者：33名)

期間： 2018年9月18日～2019年2月13日(149日間)

派遣先： カリフォルニア大学デイヴィス校(アメリカ)

B. アメリカ/カナダ派遣6ヵ月留学(STAYS)16単位

対象： 大学文学部英語英米文学科2年生(参加者：40名)

期間： 2018年8月25日～2019年1月22日(151日間)

派遣先： ピッツバーグ大学(アメリカ)

C. アメリカ/カナダ派遣6ヵ月留学(STAYS)16単位

対象： 大学文学部英語英米文学科2年生(参加者：40名)

期間： 2018年9月3日～2019年1月28日(148日間)

派遣先： ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)

D. 児童教育学科海外教育語学研修(SEEC)2単位

対象： 大学教育学部児童教育学科1～3年生(参加者：17名)

期 間： 2019年2月3日～2019年3月5日（31日間）

派遣先： ヴィクトリア大学（カナダ）

E. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）16単位

対 象： 大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科1年生（参加者：55名）

期 間： 2019年2月20日～2019年7月19日（150日間）

派遣先： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

F. 看護学科国際交流・実践（IEAP）2単位

対 象： 大学看護学部看護学科2年生（参加者：18名）

期 間： 2019年3月1日～2019年3月30日（30日間）

派遣先： アルバータ大学（カナダ）

G. 北米文化語学演習（NACLP）2単位

対 象： 大学1～3年生、短期大学1年生（参加者：24名）

期 間： 2019年2月3日～2019年3月5日（31日間）

派遣先： ヴィクトリア大学（カナダ）

- ⑦ 文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」
国際観光ビジネス学科の学生が第9期生として、地域人材コース「島根県グローバル人材
育成支援事業」に採択され、オーストラリア（シドニー）での活動を開始しました。

- ⑧ 奨学金/留学生交流支援制度（短期派遣）

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、独立行政法人日本学生
支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）に次の5プログラムが採択されました。

海外留学支援制度（協定派遣）とは、日本の大学、大学院、短期大学等が、諸外国の学校
等と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づく諸外国の学校等への短期間の学生派遣
を支援する奨学金で、月額8万円を支援するものです。

本学では、対象の海外留学プログラム参加学生で、本奨学金の給付を希望する学生を選考
し、合計149名に、独立行政法人日本学生支援機構から受けた奨学金5,304万円を給付しま
した。

【申請したプログラム・奨学生数・奨学金総額（内訳）】

A. 英語英米文学科 アメリカ派遣6ヵ月留学（STAYS）

50名・2,032万円（8万円×5ヶ月×50名＋渡航支援金）

B. 英語英米文学科 カナダ派遣6ヵ月留学（STAYS）

31名・1,272万円（8万円×5ヶ月×31名＋渡航支援金）

C. 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）

44名・1,808万円（8万円×5ヶ月×44名＋渡航支援金）

D. 児童教育学科 海外教育語学研修（SEEC）

10名・80万円（8万円×1ヶ月×10名）

E. 看護学科 国際交流・実践（IEAP）

14名・112万円（8万円×1ヶ月×14名）

⑨ 奨学金/安田女子大学海外研修支援制度

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、本学として、次の 2 プログラムを支援しました。

安田女子大学海外研修支援制度とは、安田女子大学と諸外国の学校等とのプログラム等に基づき、当該諸外国の学校等へ派遣する本学の学生に対して支援する支援金で、2018 年度は、対象の海外留学プログラム参加学生で本支援金の給付を希望する学生を選考し、一人 20 万円、合計 40 名に 800 万円を給付しました。

【対象のプログラム・奨学生数・奨学金総額（内訳）】

A. 英語英米文学科 アメリカ派遣 6 ヶ月留学（STAYS）

21 名・420 万円（20 万円×21 名）

B. 英語英米文学科 カナダ派遣 6 ヶ月留学（STAYS）

8 名・160 万円（20 万円×8 名）

C. 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）

11 名・220 万円（20 万円×11 名）

⑩ 奨学金/教育ローン利息補給奨学金制度

教育ローン利息補給奨学金とは、指定金融機関の教育ローンを利用して納入する学納金等に係る利息の一部を奨学金として学生又は学生の保護者に補給するものです。

2018 年度は、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計 74 名に 287 万円を給付しました。

⑪ 学生の出身高等学校訪問

一人暮らしの在学生（大学・短期大学 1 年生）が夏休み中に帰省して、出身高等学校（母校）を訪問し、高等学校の先生に成長した姿を見せて学生生活を報告することを教育的な機会と考え、大学として支援しました。

2018 年度は、福井県から沖縄県まで 18 の都道府県に 95 名の学生が出身校を訪問しました。

⑫ 新入生歓迎行事

A. 新入生のためのクッキングセミナー

2018 年 4 月 17 日（火）～4 月 21 日（土）の 5 日間、新入生の自立を支援する企画のひとつとして開催しました。

初めての一人暮らしで自炊が不安な学生はもちろん、料理に関心がある学生や料理が苦手という学生まで、5 日間で 100 名を超える新入生が参加しました。

B. 一人暮らし支援イベント

2018 年 4 月 14 日（土）、一人暮らしを始めたばかりの新入生に、同郷の先輩、同級生、教職員との出会いの場を提供し、つながりをつくることで一人暮らしの不安を和らげ、順調な大学生活をスタートしてもらうことを目的として開催しました。

当日は 200 名を超える新入生・上級生、教職員が参加し、出身が同じ県、地域ごとにテーブルを囲み、ゲームや歓談を楽しみました。

C. オリエンテーションセミナー

2018年度の実施日程は、下記のとおりです。

2018年 5月 9日(水) ～ 11日(金)	現代心理学科 ビジネス心理学科 保育科	国立江田島青少年交流の家
2018年 5月11日(金) ～ 13日(日)	現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科 薬学科	
2018年 5月 9日(水) ～ 11日(金)	生活デザイン学科 管理栄養学科 造形デザイン学科	国立三瓶青少年交流の家
2018年 5月11日(金) ～ 13日(日)	英語英米文学科 看護学科	
2018年 5月13日(日) ～ 15日(火)	日本文学科 書道学科 児童教育学科	

⑬ 教職課程再課程認定申請

教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2019年度4月以降も引き続き教職課程を有するための課程認定（再課程認定）を受けるため、文部科学大臣への再課程認定申請を行いました。課程認定委員会による審査等を経て2019年1月25日付で認定通知書を受理しました。

⑭ 免許状更新講習を実施

現職教員、教員採用内定者などに対し、教員として必要な資質能力の保持と最新の知識技能を身に付ける制度である免許状更新講習を2018年8月に開講しました。本学では、前年から継続開講の幼稚園、小学校、中学校・高等学校（国語・書道・外国語（英語）・家庭科）教員コースに加え、栄養教諭コースを開講しました。コースごとに必修講座（6時間）、選択必修講座（6時間）及び選択講座（18時間）、合計30時間の講座を実施し、約400名が受講しました。

⑮ ノートパソコン供与

新入生全員に同一モデルを供与しました。これにより、ノートパソコンを活用した学習効果が向上しました。

⑯ 施設の改修・整備

A. 防災センター火災受信機更新

設置後20年が経過し、経年劣化による不具合が発生した火災受信機を更新しました。火災受信器と共に連動するA棟・8号館内の火災感知器（840台）、防火扉リリース（54台）、各棟の受信中継器を更新することで、火災時の学生及び教職員の安全を確保しました。

B. A棟・8号館トップライト・カーテンウォール改修工事

竣工後20年が経過し、経年劣化により漏水しているアトリウムのトップライト及び、外壁カーテンウォールの防水シールを更新しました。雨天時の漏水を無くすことで、快適な学習空間を提供することができました。

C. 図書館・7号館吸収式空調設備更新

設置後、30年以上経過した吸収式空調設備2台（冷却塔共）を更新し、省エネも含めより快適な教育環境を提供することができました。

D. 近隣道路拡張工事

大学に隣接する道路は幅員が狭く、度々車両による接触事故が発生していました。この度、道路に隣接する土地を取得し道路幅員を拡張することで、無理なく車両がすれ違うスペースを整備し、学生及び教職員の安全を確保しました。

E. エスカレーター法面補強工事

通学路エスカレーターの法面は、近年の豪雨により崩落の危険性があるため、緊急対策として一昨年の東側に続き、西側法面の崩落防止措置（補強工事）を行い、災害防止対策を行いました。

F. 6号館照明LED化工事

照明設備が設置後32年を経過していたため、照度確保による教育環境改善及び、共用部の安全確保・省エネルギー化を目的として6号館の照明器具を全てLED化しました。

G. 事務系システム更新

事務系ネットワークのファイヤウォール装置の更新、及びグループウェアが稼働しているサーバーの更新を実施し、業務の安定稼働を図りました。

(2) 安田女子高等学校・安田女子中学校

① 課題研究と教科連携による生徒の科学的思考力育成の取り組み

平成24年度から平成30年度までのスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）指定により、理科・数学を中心とした科学的思考力・判断力・表現力の育成が、学校としての研究開発課題となっています。本校ではこの取り組みを理科と数学に限定せず学校全体の取り組みとして、すべての生徒の科学的思考力を向上させるため、中学1年生から教科連携を取り入れた課題研究に取り組んでいます。

中学1～2年生：研究の手法を学び研究の流れを理解させることを目的に身近な問題を題材として、グループによる課題研究に取り組みました。

中学3年生：ゼミを構成し、ゼミごとにテーマを設定して1年間かけた長期研究に取り組み、通常授業との教科連携も活用しながら、「思考を深める」ことを目的にしています。研究成果は12月の生徒研究発表会や本校以外での研究発表会でも発表しました。

高校1～2年生：課題研究の集大成として、自分の進路も意識した課題研究に取り組みました。研究成果をレポートにまとめ、高校3年生での志望理由書やAO入試にも活用しています。

またSSコースでの課題研究は、理科や数学に重点化した内容とし、その成果を研究論文にまとめ、各種研究発表会や学会等で発表しました。

② 高大連携の推進

高大連携をより一層推進するため、安田女子大学、広島大学など近隣の大学との連携を深めています。12月には安田女子大学を会場に生徒研究発表会を行い、本校の生徒だけでなく、近隣大学の学生や台湾姉妹校の生徒も参加した研究発表会を行いました。またグローバルサイエンスキャンパス広島事業に多くの生徒が参加し、広島大学、広島市立大学などで大学の教員の指導を受けながら、多方面にわたる研究活動に取り組んでいます。

③ 進路観育成と進路保障の取り組み

6年間を通して生徒が適切な進路設定と主体的学習をおこない、自らの進路実現を可能にしていけるよう取り組んでいます。発達段階により、違った取り組みができるように補習は必ずレベル分けをし、より適切で主体的な学習ができるよう配慮しています。また高等学校入学時から卒業まで、一貫した進路指導をおこない、進路実現ができるよう各学年で下表のような取り組みをすすめています。

	進路観の育成や進路保障に関する主な取り組み
高校1年生	オリエンテーション合宿 学部・学科研究 進路講演会 広大・京大・東大へのオープンキャンパス参加 大学へのオープンキャンパス参加 大学の出張講座受講 模擬授業（課題研究） 早朝・放課後の補習授業 夏季補習 春季補習 学習合宿 進路面談 教科面談
高校2年生	進路講演会 広大・京大・東大へのオープンキャンパス参加 大学の出張講座受講 早朝・放課後の補習授業 夏季補習 春季補習 学習合宿 進路面談 教科面談
高校3年生	進路講演会 早朝・放課後の補習授業 夏季補習 春季補習 学習合宿 進路面談 教科面談

④ 牛田総合グラウンドの活用

牛田総合グラウンドでは、日常の体育の授業はもとより、放課後の部活動においても有効に活用をしています。

⑤ 教員研修の充実

生徒の思考力・判断力・表現力の向上が社会的な要求となる中で、本校においては「クリティカルシンキング」を思考力育成の柱とし、生徒の思考力の向上を目的とした授業改善の研究をしています。その中で9月には研究授業週間を設定し、全教員が公開・研究授業を実施しました。この取り組みでは安田女子大学の教職センターとも連携することで、将来教員を志望する大学生も多く参加しました。

⑥ 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期・長期留学などを実施することにより、異文化体験をし、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。

A. ニュージーランド・ダニーデン市の姉妹校オタゴ女子高校への語学研修・留学

a. 夏期海外研修

期 間 平成30年7月25日～8月10日 17日間

- 参加者 高校1年生 30名
- 引率者 徳澤教諭、佐藤教諭
- b. 1年間留学
 - 参加希望者なし
- c. 3ヶ月留学
 - 参加希望者なし
- d. ニュージーランド3ヶ月留学受入（ホームステイ）
 - 期間 平成30年12月13日～平成31年3月7日
 - 参加者 1名
- e. オタゴ教育旅行団受入
 - 期間 平成30年9月25日～10月1日
 - 参加者 教員2名 生徒11名
- B. 台湾蘭陽市の姉妹校国立蘭陽女子高級中学校との交流
 - a. 課題研究での発表交流(国立蘭陽女子高級中学校訪問)
 - 期間 平成30年9月9日～12日
 - 参加者 5名
 - 引率者 富永教諭、カナダ教諭
 - b. 課題研究での発表交流(国立蘭陽女子高級中学校の生徒が来校)
 - 期間 平成30年12月13日～16日 2名(教員)6名(生徒)
 - ※生徒研究発表会(安田女子大学)への参加
 - ※本校生徒と広島大学での実験実習、マイクロン広島工場見学

⑦ 体育祭

白島キャンパス再開発で校地内グラウンドが使えない状況の中、体育祭を広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）で開催しました。従来、中学と高校を別日で開催していたものを同日開催とし、多くの保護者の方々にも来場していただき、盛大に行うことができました。

⑧ オンライン英会話の実施

英語において、書く、読む、聞く、話すの4技能が重要視され、大学入試でも4技能を測る入学試験が検討されている中で、特に生徒のスピーキングとリスニングの能力を高めることを目的に、中学3年生から高校2年生までを対象にWeblio オンライン英会話を実施しました。昨年までは、希望者を対象とし、放課後実施していましたが、今年度より、年10回を目標に授業内での実施をすることとしました。効果として、英検2級合格者の増加及び英語を話すことへの心理的バリアを取り除く効果があると期待しています。

⑨ 施設・設備改修整備

A. 新校舎パブリックゾーン整備

新校舎各階のパブリックゾーンに各用途に合わせ備品等を整備しました。

【1F 教務室前】

生徒相談用テーブル、チェアを設置。休憩時間、放課後に気軽に相談や学習の質問ができるようになりました。

【1F・2F ホール】

各ホールにウォールソファを設置。生徒間交流及び社会性の涵養を図る場として有効なスペースとして利用できるようになりました。

【2F～4F 学習指導スペース】

各階にサンシーロ四角型テーブル、ミーティングチェアを設置。生徒同士が教え合ったり、先生に質問したりする際に利用しています。

【2F 自習室】

セミオープン席として、フリーウェイデスクを設置。また、クローズ学習席用にフリーウェイデスクにマッフルパネルを組み合わせることで、個室席としています。学習形態に合わせて生徒自身で机の選択をすることができます。

【2F AL教室】

スタフィットテーブル及びネスティングチェアを設置。キャスター付きで可動式及び昇降型デスクの為、立ち座りに対応でき、能動的な授業、机を合わせてのグループ討議等、様々な授業形態に対応できています。

【2F グローバルエリア】

英語多読リーダーをはじめ、小説、絵本、マンガ、ビジュアル書などの洋書約 3,100冊を配架し、中高生が気軽に英語に触れながら個々のレベルにあった英語学習ができる環境を整備しました。

【2F 閲覧コーナー】

授業でも利用しやすい書架近くの閲覧席をはじめ、教え合いをしながら学習できるブラウジング席、学習や読書に集中できる窓際カウンター席など、目的や気分に応じた利用ができる閲覧席を整備。中央に展示書架を設置したことで訪れた人の目を引く書架作りが可能となりました。

【2F～4F 学年コーナー】

学年に応じた読み物や進路選択の参考になる図書を学年ごとに配架。生徒の身近に図書を置くことで本に触れる機会を増やし、読書のきっかけ作りとなる環境を整備しました。

B. 新校舎体育館トレーニングマシン整備

新校舎体育館にトレーニングマシンを整備しました。スーパーインプレスベンチ他、一式を整備し、運動部のトレーニング環境の向上により、練習意欲及び基礎体力が向上することを期待します。

C. 新校舎AV装置一式

学校現場において授業の双方向性を高め、生徒の意欲、関心や知識・理解を高めるという目的でICT利用推進が大きな課題となっています。このような中、新校舎においても、普通教室及び多目的ホールに天井吊り型ビデオプロジェクタ装置から成るAV設備一式を設置しました。タブレットPCや教材提示装置から予め作成済の教材をスクリーンへ投影することで効果的、効率的な授業運営が可能となりました。

D. デジタルサイネージの設置

55v型傾斜スタンドタイプのデジタルサイネージを導入しました。文化祭、オープンスクール等の各種行事において、行事プログラムや生徒活動状況、施設案内などをスライドショー形式やテロップでの表示もできるため、来場者への視覚的な案内効果が期待できます。

⑩ 新校舎第1期工事完成

昨年9月に新校舎第1期工事が完成し、中学生が生活を始めております。教室だけでなくラーニングコモンズや体育館も完成し、中高生と一緒に学ぶ空間が増えました。新校舎の外観は、レンガタイルを用いた「トラディショナル・クラシカル」なデザインです。また、校舎内は、木材を多く用いて、あたたかみのある学びの場となっております。

2階にラーニングコモンズ（図書室、自習室、グループ学習室、グローバル教室など）が設置され、生徒が日常的に利用することで、多彩な交流と刺激により自然と学びが触発されることを期待しています。

(3) 安田小学校

① 教師力を高める研修（学力と品格を高める安田の教育をめざして）

A. 授業力向上プログラム

教員の授業力向上を目指し、「自ら学ぶ力を育てる授業の創造」を研究テーマに授業研究を全教員で行いました。教科ごとにチームを作り、事前研究を行い、全員が研究授業を公開し、その後、研究協議会を行いました。タブレットパソコンを使って子どもが協働的に学習を進めた社会科の研究授業など、積極的な取り組みが行われました。

B. 生徒指導力向上プログラム

教員の生徒指導力向上プログラムとして月1回、個々の課題を教員間で共有し合い、解決に向けて相談する機会を作りました。臨床心理士の笠岡朋友先生にも毎回加わっていただき指導助言を受けました。プログラムを通して教員の連帯性が生まれるとともに、自由に生徒指導の相談ができ、個々の生徒指導力もつけることができました。

② 一貫校としての取り組み

A. 幼稚園・小学校の連携

安田小学校独自の教科「くすのき」の学習で、1年生は短大付属幼稚園の年中園児を招いて、12月に「あそびの広場」を実施しました。2年生は大学付属幼稚園の年長園児を招いて、6月に「おもちゃ祭り」を実施しました。4年生は短大付属幼稚園の年長園児を招いて、10月に読書交流「おはなし広場」を実施しました。

B. 中学高等学校・小学校の連携

4年生と5年生が、中学校と高等学校生徒によるサイエンス教室に参加しました。

C. 大学・小学校の連携

土曜日の授業では、授業補助として学生ボランティアを募り、算数・国語を中心に学生が児童の指導を行いました。また、看護学部の先生を講師に招き、7月に5年生健康教室「命の授業」を実施しました。2月には5年生を対象に管理栄養学科の学生による食育教室を実施しました。

③ 保護者との連携

年11回、保護者会パパ倶楽部の方が毎回30名前後来校され、朝のあいさつ運動（ハロープロジェクト）を実施されました。この他にも、保護者ボランティアとして、1年生および2年生の茶道教室におけるお茶の準備や片付け、2年生の安田ガイドマップ作りにおける校外探検引率、また、4年生の高齢者疑似体験における装具の装着の手伝いなどをしてもらい、指導の効果が上がりました。また、学校と保護者会の共催行事として文化祭を行い、

来校者や児童のために、バザーや食堂（飲食）、および、工作遊びの運営をしていただきました。

④ 図書館教育の取り組み

子どもの心を耕し、学力を支える図書館教育を実践しています。「ブックトーク」「ストーリーテリング」「読み聞かせ」「パネルシアター」「読み合い」「アニメーション」「読書会」などの読書指導や「分類番号」「図鑑と百科事典の使い方」「調べ学習」などの利用指導を図書の時間や特別活動で行いました。パスファインダーを用いて図書資料とICTを併用した調べ学習も行いました。また「リーディング・ビジット」「読書郵便」「ブックチャレンジ」「親子読書」「朝の10分間読書」「読書祭り」「リーディングタイム」などを通して、図書館教育の充実に取り組みました。

⑤ しつけ指導

『安田式しつけ教育』（書籍）に基づき、第2章学校のしつけと第3章授業のしつけについてカリキュラムを作成し、全学年で計画的に指導しました。第1章家庭のしつけは保護者の方のご協力のもと、指導を行いました。

⑥ 安全指導・安全対策

A. 登校・下校指導

1年生と2年生は交通安全教室を行いました。また、教員が土曜日や学校行事の下校時、学校の周りに立ち、児童の安全と迷惑をかけない態度について指導を行いました。

B. 下校方面別指導

年2回下校方面別の話し合いを持ち「危険な箇所」や「子ども110番の家」の確認をするなど、危険回避能力の向上を図りました。

C. 防犯教室

12月に警察署の方に来ていただき、防犯教室を実施しました。1月には3年生保護者対象の携帯防犯教室を行い、携帯を持たせる上での注意点を理解してもらいました。

D. 防災訓練

4月に防災知識と避難方法を学習し、訓練を年2回実施しました。

⑦ 多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

A. 体験活動

- a. 4・5年スケート教室
- b. 6年スノーボード教室

B. 宿泊学習

- a. 3年山の学習1「もみのき森林公園」5月31日から1泊2日
- b. 4年山の学習2「帝釈峡・吾妻山」7月22日から2泊3日
- c. 5年海の学習「蒲刈・県民の浜」7月26日から1泊2日※台風のため中止
- d. 5年まほろば学習（京都での日本の伝統文化体験学習）10月17日から2泊3日
- e. 6年山の学習3「島根県三瓶山一帯」7月22日から2泊3日

C. 鑑賞会・特別授業

「一流のものを鑑賞させる」内容を選定しています。

- a. 鑑賞会
全学年6月に鑑賞会を行いました。
1、2年生が2月に人形劇を鑑賞しました。
- b. 音楽鑑賞教室
2年生以上の学年で音楽鑑賞教室を行いました。
 - ・2年生 打楽器鑑賞教室
 - ・3年生 金管楽器鑑賞教室
 - ・4年生 木管楽器鑑賞教室
 - ・5年生 弦楽四重奏鑑賞教室
 - ・6年生 フォルクローレ鑑賞教室
- c. 映画鑑賞
全学年で11月に鑑賞しました。
- d. 特別授業
5年生は5月に朝日新聞社講師による授業「新聞記事の作り方」を受けました。

⑧ グローバル人材育成プログラム

A. オーストラリア海外学習

平成31年3月20日から3月31日までの春休み12日間、オーストラリア・アデレード郊外で海外研修（4・5年希望者対象）を実施しました。参加した4年生30名・5年生2名は、ホームステイ生活を経験しました。そして、姉妹校のRedeemer Lutheran小学校で児童との交流授業・英会話学習などを行いました。また、シドニーのオペラハウス・ロックス地区見学など、外国での生活や見聞を通して異文化理解を深め、他国の人とも積極的に関わっていく姿勢を身につけました。

B. 姉妹校との交流学习

2年生は12月にRedeemer Lutheran小学校の2年生からクリスマスカードを受け取り、そのお返しに安田小学校から年賀状を送り、読みあいました。

5年生は5月にRedeemer Lutheran小学校の5年生から日本語で書かれた手紙を受け取り、安田小学校からは英語で手紙を送りました。これは、安田とRedeemer Lutheranの児童のペア活動としての取り組みで、この間、手紙を送った相手とSkypeで自己紹介をしました。また、9月には、お互いが質問状を送り、その返答をSkypeで行いました。

C. その他の国際理解学習

1年生はハロウィンパーティーを通して英語圏の文化を体験しました。3年生は学園のネイティブ英語教師に宮島のもみじまんじゅうやお好み焼き、平和公園など広島について英語で伝え、ネイティブ教師からは出身国について教えてもらう授業を行いました。同様に4年生はギニアの方から民族音楽の太鼓や歌の演奏を聴き、ダンスを交えて一緒に演奏しました。6年生は平和学習の一環で、原爆投下から復興するまでを理解し、広島市立大学の先生から原爆についてアメリカ人の考え方を聞き、平和のためにできることを考えました。また、社会科の授業で国際問題を解決するための国連とNGOの働きを学び、自分には何ができるか考えました。

D. 英語プログラム

英語を学び、使う機会を作ることを目的に、English Campを実施しました。夏休みに4年生が、冬休みに3年生が20名～40名参加し、英語の授業を受けました。

英語の授業を2～6学年週2時間(年間70時間)、1学年週3時間(年間102時間)に増やしました。英語スピーチコンテストを開催し、英語を話す場を作りモチベーションを上げることができました。また、英語専任教師3人を配置し、少人数授業やTT授業を行うなど指導形態を工夫し、「英語といえば安田小学校」と言われるように児童の英語力を上げる方策をとっています。

⑨ 保護者支援

A. 携帯電話の持たせ方

携帯電話所持は届出制で、ルールを指導し、保護者への啓蒙を図りました。

B. 学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として学校カウンセラーを配置しました。数名の保護者が継続して利用されました。

C. アフタースクール

放課後の預かりとして、ホームクラスでは宿題や読書、校庭や室内での遊びを行いました。また、英語やそろばん、体操、サッカーなど知識や技能を培うスタディコースを14に増やし、実施しました。特に今年度は、ピアノ教室や絵画造形教室、毛筆教室といった芸術系の講座を新たに取り入れました。ホームクラスとスタディコースを併用することで、最長19時までの放課後預かりが可能のため、年々利用が拡大し全家庭の8割が利用登録しています。

D. デリバリー弁当の改善

当日の朝まで注文できるようにし、食品ロスをなくしました。また、年2回保護者と児童参加の農業体験を業者の自社農場で実施しました。

⑩ 児童募集

A. 6月学校公開

6月9日(土)に、本校の教育に興味を持たれている方を対象に学校公開を実施しました。2校時に授業参観をすべてのクラスで行いました。3校時は保護者の方に学校紹介を聞いていただき、園児は6年生企画による折り紙・ゲーム・お絵かきなどをして楽しみました。

B. 授業体験会

7月28日(土)に授業体験会を実施しました。算数や図画工作の授業を幼児が体験し、また、学校を知る取り組みになりました。

C. 児童募集説明会

9月22日(祝)実施。学校説明と入試説明を行いました。

D. 園児面接(入学試験)ー新入児童募集定員80名ー

11月1日<女児>・2日<男児>

E. オープンスクール

2月23(土)に参観授業を行い、子どもの様子や学校を知る機会にしました。

(4) 安田女子大学附属幼稚園

① 保育・研究活動

A. 重点目標「意欲的に環境にかかわり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～遊びの提供・充実を考える～」への取り組み

教育の柱「自然が好き」を重点目標として、遊びの中でどんなことを感じたり考えたりしながら遊んでいるのか、何が育っているのかを理解し、計画性や連続性をもって教師が遊びの提供や環境の充実を考えることで、自ら気づいたり意欲的に行動したりする力を育てたいという思いで設定しました。

具体的方策の中に教師も一緒に遊びに参加したり誘ったりしながら運動遊びを提供していくなど、人的環境である教師の援助を具体的に掲げたり、子ども理解を深めるためのミニミーティングを定期的に行う事や家庭との連携による生活リズムの定着を目指した生活カレンダーの活用を取り入れたりしました。

年度末のアンケートも 100%の回収率で子どもたちの育ちや園の取り組みなど高い評価をいただきました。

幼稚園の取り組みについては、保護者アンケートではどの項目も高い評価をいただいています。生活習慣の基礎を身に付ける「生活カレンダー」の項目に関しては比較的、評価が低くなっています。今年度は、特に園児の偏食改善のために、お弁当を残さず食べる指導を幼稚園と家庭で、それぞれ1週間ずつ取り組みました(毎月)。保護者の中には毎月実施したことに負担を感じる方や、十分活用できなかったという意見の方もおり、生活習慣については、幼稚園と家庭が協力して身に付けていくことが大切だということ伝えていく努力や工夫が足りなかったと感じています。

自園評価では継続した遊びの環境作りや生活カレンダーの内容について課題が残りました。次年度、教員間で共通意識をもちながら、改善に努めていきます。

B. 教員の指導力向上を目指して

a. 合同ワークショップ研修会開催

短大附属幼稚園と合同で、今年度も「教員合同研修会」を開催しました。大学幼稚園の課外教室でお世話になっている川口彩先生の実技指導と講義を受けました。実技と理論を通して学んだことを子どもたちの生活の中に意識して取り入れるとともに、来年度から教材研究をしていながら学んだ新しい教材や技法を保育の中に取り入れていく予定です。

b. 子ども理解と園内研修の充実

今年度も本大学の学生の卒論研究と並行して、子どもの行動観察と教師の援助について児童教育学科と心理学科の准教授に指導を受けてきました。いろいろな検知からのアドバイスを受けることで、子ども理解を深め、その手立てとしての教師の援助をいかにすべきかということが、一人ひとりの日々の実践につながってきています。次年度もこの研修を積み重ね、指導力を高める努力をしていきます。

c. 今年度から主任が担任を持たず、保育全体の把握と指導を行いました。特に若い教諭の支援や保育の補佐などを行うことで、多様な子どもの見方ができたり、担任の負担が軽減されたりしました。

② 図書教育の推進

A. 絵本の貸し出し

2週間に1回の絵本の貸し出しを継続して行っています。親子で1冊の絵本の楽しさを共有する読み聞かせの時間を作ることが毎日の家庭生活の中に根付いてきていることを感じています。園の蔵書を充実させていき、家庭との連携を図る“絵本ノート”を活用しながら、今後も読書活動を推進していきます。

B. 「お話しタイム」「リーディングタイム」の継続

園長が各クラスを訪れて絵本の読み聞かせをする「お話しタイム」を今年度も継続して実施しました。毎週火曜日は全園児を対象にネイティブの講師による英語の絵本の読み聞かせも継続して行っています。子どもの情操を豊かにし、聞く態度とともに聞く力の形成につながる活動を積み重ねています。

2019年度からECCに委託することにより、より英語教育の継続を図っていきたいと思います。

③ 保護者教育の推進

A. 園長主催の専科

大学の付属幼稚園であることを活かしながら、保護者にも学ぶ楽しみをもつ機会となる園長主催の講座を継続して実施しています。今年度は「学びま専科」1回、「聞きま専科」1回、の計2回実施しました。

12月には「学びま専科」で、広島県教育委員会の「親の力」を学び合う学習プログラムに参加しました。このプログラムは、安田女子短期大学保育科 橋本信子教授が監修に携わっています。学習プログラムは「いきなりどなっていないませんか?」「備えあればいかりなし?!」「指示より支持してみよう」という話題で話を進めてくださいました。約40名を対象に3グループに分かれて、広島県教育委員会よりこられたファシリテータが話を進めていきました。

2月には安田小学校長を招へいし、「小学校入学までにしておきたいこと」と題した教育聞きま専科（講演会）を行い、約70名の参加がありました。どの会も好評で、次年度も大学や系列校である小学校との連携を図り継続していきます。

B. 子育て講演会の開催

12月5日に在園児保護者と親子登園に参加された未就園児保護者を対象に「子育て講演会」を実施しました。講師は、課外教室でもお世話になっているNPO法人スポーツクリエイションの住本幸治氏による「子どもの未来につながる運動遊び」の演題でした。実際の在園児の課内のサッカー運動遊びの映像を見ながらの話しは保護者にも、よりわかりやすかったという意見が出ました。

在園児保護者と未就園児保護者がともに参加できるこの講演会は、本園ならではの貴重な機会となっています。

④ 自然体験

本園は自然環境に恵まれており、年間を通して田んぼや畑での収穫体験ができます。田植えをし、もち米を育て、収穫して餅つきを行い、食すという一連の本物の体験は現在では貴重な体験です。また、探索道に入り、どんぐりやまつぼっくりなどの自然物収集やロープのぼり・芝すべりを今年度も楽しみました。

また、例年行っている親子で野菜を植え育てるという活動も取り入れ、自分たちで育てた野菜の生長や食することを喜び、収穫体験にもつながっていきました。

⑤ 一貫校としての取り組み

A. 大学生の卒論研究への協力・ボランティアの受け入れ

毎年、本大学・短大の学生の卒論研究の保護者アンケート、教員アンケートや実践への協力をしています。児童教育学科理科ゼミの実践として預かり保育のクラスで、11月に「どんぐりを使った遊び」の時間がありました。どんぐりを使って、どんぐりこま・マラカス・ボウリング遊びなどの経験ができました。

子どもたちとの生活が新鮮で、今後の勉強への意欲につながったようでした。

B. 大学の施設を利用した体験

大学9号館にある天文台では天体観測、大学図書館でも絵本を借りる活動を、年長組のお泊り保育の際にしています。また、「親子で星を見る会」を実施しており、天文台での星空観察は人気の体験会となっています。

その他、今年度、造形デザイン学科の教務職員の方から、年長組が陶芸を教えてもらい、陶芸室でお皿づくりをしました。こうした大学の施設をした体験ができる機会を本園の魅力の一つとして継続していきます。

C. 管理栄養学科3年生によるお弁当パーティーに参加

今年度、管理栄養学科の学科長と准教授により、学生たちと広島生鮮三品連絡協議会とのコラボによる広島の食材を使ったお弁当のレシピ考案会に参加しました。

親子25組の定員として募集をかけ、大人26人、子ども26人、その兄弟が9人の参加がありました。パーティーの中では手の洗い方の指導や食育クイズ、たくさんのお弁当レシピの試食もありました。保護者アンケートの結果もとても良い評価をもらいました。

管理栄養学科との連携も引き続き、実施していきたいと思います。

D. 小学校との連携

安田小学校の「くすのき」の授業の中で6月に「おもちゃ祭り」が実施され、今年度も2年生と年長児との交流を行いました。お兄さん・お姉さんと1対1で工作をし、遊び方を教えてもらった後、一緒にお弁当を食べました。この1日を通して小学校への期待感や小学生への親近感をもつことができました。

⑥ 地域との交流

A. 保・幼・小との交流

毘沙門台・筒瀬小学校区の保・幼・小連携推進委員会に参加し、毘沙門台小学校との交流は8年目となります。今年度は、夏休み中にサムエル信愛こどもの園を訪問し、保育参観と協議を行いました。幼稚園の教員同士が同じ目線で子どものことを話す機会があることは、一番の連携となります。また、幼保小合同研修会として「接続カリキュラムについて」幼児教育アドバイザーの井原貴子先生の話を行いました。2月には、毘沙門台小学校を年長児が訪問し、就学に向けての不安を軽減し、期待を膨らませました。

B. 中学生の職場体験

高取北中学校・安西中学校・安佐南中学校・祇園中学校からの依頼があり、年間を通して女子22名、男子6名の生徒を受け入れました。大学構内を歩いて園に来る際に充実した施設を目にし、将来への夢を明確にした生徒もいました。地域に貢献できることとして

この職場体験の受け入れを可能な範囲で今後も行っていきます。

⑦ 子育て支援事業

A. 休日園開放「幼稚園であそぼう」

今年度も、4日間実施し、延べ226組の参加者がありました。好評である本学の教授と学生による“人形劇や楽器作りのプログラム”や幼稚園の探索道や自然環境・大学構内のオリエンテーリングもあり、付属幼稚園ならではの活動を楽しんでいただきました。

B. 園開放・園庭開放

今年度は、園開放の回数を5回とし、延べ163組の参加者がありました。園庭開放は、土曜日に実質4回の実施となり、延べ126組の参加者がありました。

C. 2歳児親子登園

今年度も、親子登園の実施日を9月まで伸ばし、幼稚園への入園を考えていただける機会となるようにしました。定員を7グループ各14組の5回コースで、延べ511組の参加者がありました。5回の中、7月は水遊び、9月はお楽しみ会としました。

また、9月には新規親子登園を実施し、3回コースで延べ84組の参加者がありました。親子登園参加者からの志願者数が伸びず、来年度は、回数を3回にして16組の募集とし、また9月は4回の新規の親子登園を再度募集して体験してもらえる親子を増やしていきます。

D. オープンスペースの実施

昨年度から予約なしで参加できるオープンスペースとしてキッズルームを開放しています。年間10回実施し、0歳から2歳前までの乳幼児親子延べ94組の参加者があり、園長や本大学の准教授による子育て相談も行いました。

⑧ 子育て支援の充実

A. 大学・短期大学の施設“Sophia”での預かり保育

保育時間後の預かり保育と、7時45分からの早朝保育や17時から19時までの延長保育を大学・短大の施設“Sophia”で継続して実施しています。預かり保育専任教諭と専門職員が担当し、実施日が通常保育と長期休業中を合わせ232日となりました。利用人数は通常保育では、延べ人数5,355人、長期休業中は、39日の実施で延べ人数1,112人の利用、1日平均は28人となり、年間を通して延べ人数6,467人と多くの利用者がありました。そのうち、早朝保育利用者は、通常保育中が延べ1,025人、長期休業中は延べ197人で、合計1,222人となり1日平均5.3人となりました。延長保育利用者は、通常保育中が延べ1,229人、長期休業中が延べ163名、合計で1,392人となり1日平均6人となりました。

B. 課外教室の充実

幼稚園の保育終了後の課外教室が昨年度から6教室となり、保護者にも好評を得ています。硬筆、絵画、ダンス、英語、体操、サッカー運動遊びがあり、課外教室の選択肢が増えたことは、子どもたちの励みとなり、自信につながっています。

⑨ 情報発信

A. 幼稚園案内を見直し、ホームページとイメージを連動させ、詳しい内容をじっくり見ることができるよう充実させました。ホームページと共に幼稚園の魅力を広く発信していき

ます。

B. 新聞折り込み広告とあわせて、初の試みとして、スマートフォン向けに Web 広告を 1 か月間掲載しました。Web 広告は掲載期間を長く設定したため、1 日の掲載頻度が低かったことが課題となりました。来年度に向けて、掲載期間・頻度について見直していきます。

(5) 安田女子短期大学附属幼稚園

① 保育研究活動

A. 重点目標と学校評価

昨年に続き、今年度の重点目標を「4 つの柱を通してやさしい心たくましい力を育成する」と決め、各柱に 1 つずつ自己評価の視点を決めて指導に努め、併せて学校評価に取り組み保護者の評価を受けました。4 つ柱の視点を、心通うあいさつは「姿勢」、自然とのかかわりは「野菜や植物への関心」、友達いっぱい「運動遊び」、おはなし広場は「文字や数量への関心」としました。保護者アンケートの回収率は 89%で、保護者評価はどの項目も 4 段階評価で 3.5~3.9 と高いものでした。自園評価は 3~3.8 となりました。学校関係者評価委員会でもいただいたご意見も併せて課題を明確にし、次年度に繋げていきます。

B. 教員研修ワークショップ

理論と実技を通して指導の幅を広げることを目的に、大学附属幼稚園の教員と共に、今年度も長期休業中を利用してワークショップを実施しました。

夏休みに、川口彩先生による絵筆と絵の具を使用した研修会を実施し、26 名の教員が参加をしました。川口先生が、これまで指導されてきた技法などについて学んだ後、実際に絵の具を使ってワークショップを行いました。

② 読書活動の充実

A. 読み聞かせ

図書室での園長による読み聞かせ「おはなし広場」を 14 年継続しています。今年度、年間 34 回実施し、年少組に 62 冊、年中・年長組に 64 冊の絵本を読みました。各学年とも、クラスでの日々の読み聞かせや月間絵本の活用にも力を入れています。今年度も、月 2 回保護者による読み聞かせを図書サポートの皆様にしていただき、園児のみならずサポートの保護者にとっても楽しい時間となりました。

B. 絵本の貸し出し

今年度で、絵本の貸し出しも 9 年目を迎えています。本園が読書活動を大切にしていることが保護者にも浸透し、家庭での絵本の読み聞かせにも協力的です。借りた絵本の題名や作者、子どもの感想など「絵本カード」に毎回記録していただき、イラストなど描かれる保護者もいます。

C. 絵本作家による講演会

新園舎で迎える初めての創立記念日を記念して、絵本作家の宮西達也さんを講師にお迎えして、読み聞かせを親子で楽しむ会を 1 月 25 日に開催しました。宮西さんの作品は絵本のみならず、DVD 化や映画化されたり、小学校の教科書に載ったりしています。ティラノサウルスシリーズの絵本は、子どもたちに大人気です。当日は、年中組、年少組、年長組の 3 部構成で、それぞれの学年に合わせて絵本を読んでもいただきました。

③ 自然体験

今年度も安佐南区上安の観察農園で、4月末から5月初旬にいちご・スナップ豆の収穫と、6月に玉ねぎ・じゃが芋の収穫とサツマイモの苗植え、10月・11月にさつま芋と12月に大根の収穫、3月初旬にジャガイモの種芋植えを体験しました。また、安東キャンパス内の田んぼで5月に田植え、9月に稲刈りを行いました。

保護者会役員の協力を得て、収穫した野菜でカレーや豚汁会食、もち米で餅つきを行い、食への関心を深める活動になっています。また、自然の恵みや管理してくださる方々への感謝の気持ちも育まれます。

④ 一貫校としての取り組み

A. 小学校との交流

今年度も、小学校との交流の場をもち、年長組は、10月25日に4年生による読み聞かせ「おはなし広場」に招待してもらい、ペープサート劇や、パネルシアター、絵本の読み聞かせをしてもらいました。年中組は、11月29日に1年生の「あそびの広場」に招待してもらい、手作りの玩具で一緒に遊びました。小学生との体験は、就学の期待につながるだけでなく、異年齢で交流することで相互に思いを寄せ合う意義ある体験になっています。

B. 中学・高等学校との交流

今年も幼児教育に関心のある高校生が、夏休みの預かり保育日に来園し、午前9時から午後4時まで園児と関わったり、教材作りのお手伝いをしたりしました。今年度は、24日間の預かり日のうち、12日間で、延べ133名の生徒が参加しました。これらの体験が、保育士や幼稚園教諭志望につながっています。

C. 小学校長による教育講話

1月28日、保護者を対象に、「学ぶということ（園や小学校の教育が自己実現を左右する）」と題した教育講話を安田小学校校長 新田哲之先生にいただき、70名を超える保護者の方が参加されました。やがて就学を迎える子どもたちが小学校以降伸びる子どもになるために、幼少期に大切なことを学ぶことができた、貴重な場になりました。

⑤ 防犯・安全（避難訓練）

園では、非常時に、保育者の指示に従って行動することができるよう全園児で訓練を重ねています。不審者を想定した避難訓練を年1回、地震を想定した避難訓練を年3回、火事を想定した避難訓練を年3回実施しました。

⑥ 石巻市の被災幼稚園および矢野幼稚園との交流

2011年3月の東日本大震災発生後の夏から、被災された石巻市の渡波学園 長浜幼稚園と交流を続けています。今年度は、長浜幼稚園から西日本豪雨災害の復興に役立ててほしいと義援金が贈られてきました。保護者会からの義援金と合わせて寄付をしました。また、被災した矢野幼稚園に夏祭りで集めた絵本300冊を寄付しました。

⑦ 子育て支援の充実

A. 預かり保育

*（ ）は前年度

預かり保育を利用する園児は今年度も大きく伸びました。早朝預かりが6%、通常預かりが9%の伸びを見せました。また、17時から18時までの延長預かりは34%、18時から

19 時までの延長預かりは前年度 54 人から今年度 648 人と 10 倍以上の伸びを見せました。1 日平均でも 50 人を超える園児が預かり保育を利用しています。共働きのご家庭にとっては、安心して預けることのできる場所として、認知をされてきた証拠でもあります。

今年度、早朝保育利用は年間延べ 3,175 人 (2,989 人) が利用、通常保育時間後から午後 5 時までの預かりは延べ 9,470 人 (8,687 人)、1 日平均 52.9 人 (45.5 人) の利用でした。17 時から 18 時までの延長預かりは延べ 1,978 人 (1,475 人)、19 時までは延べ 648 人 (54 人) の利用がありました。

長期休業日 (春休み・夏休み・冬休み) の預かりは、年間 44 日 (46 日) 実施し、延べ 1,379 人 (1,371 人) の園児が利用しました。そのうち、早朝預かりは延べ 501 人 (431 人)、延長預かりは 268 人 (183 人) このうち 102 人 (40 人) が午後 7 時まで利用しました。

行事の振替休日の預かり保育は保護者の就労に限定し、6 月の日曜参観日の振替休日には 14 人 (23 人)、9 月の文化まつりの振替休日には 16 人 (15 人)、10 月の運動会の振替休日には 12 人 (15 人) の利用がありました。

預かり保育の利用は、今後も増加傾向が予想されます。

B. 課外教室

* () は前年度

今年度も英語・音楽・体育・バレエ・硬筆・サッカーの 6 つの課外教室を行っています。

英語、音楽、体育、バレエは全学年募集し、英語 32 人 (18 人)、音楽 13 人 (4 人)、体育 52 人 (27 人)、バレエ 37 人 (47 人) が参加しました。サッカーは、年中組と年長組が対象で 38 人 (34 人)、硬筆は年長組対象で 32 人 (31 人) の参加でした。

通常保育後、慣れた場所で好きな課外教室が選べ、共働きの家庭の園児も参加できることから、複数の課外教室を利用する園児が増えています。

C. 親子登園・園開放・園庭開放

* () は前年度

今年度も 2 歳児を対象にした親子登園と休園日の園開放、1 歳児からを対象にした園開放と園庭開放を実施し、未就園児親子に遊びの場を提供し、地域の子育て支援センターとしての役割を担ってきました。

1 年間の実施回数、参加者は下記の通りですが、すべて増加しています。

- ・親子登園：50 回、11 グループ延べ 186 組の親子 (50 回で 171 組)
- ・休園日の園開放：3 回、延べ 227 組の親子 (3 回で 213 組)
- ・開園日の園開放：2 回、延べ 65 組の親子 (2 回で 64 組)
- ・園庭開放：8 回、517 組の親子 (9 回で 303 組)

⑧ 充実した新園舎

4 月 9 日から新園舎での生活がスタートしました。クラシカルな外観からタイルアートのピロティを抜けると、ワクワク感満載の環境となっています。1 階中央には、心のシンボルツリー「LOVE の木」、ボルダリングコーナーのある遊び場、また、階段状の図書室などもあり、子どもたちに大人気です。2 階には入園式や発表会が行える広い遊戯室があり、預かり保育室・午睡室なども完備されています。また、広い園庭には、スクーターのサーキット場やビオトープもあり、日々、子どもたちの歓声が聞こえてきます。

III.財務の概要

今年度の資金収支について、収入総額は、195億5,975万4千円、支出総額は182億7,897万3千円となり(収支とも繰越支払資金を除く)、前年比では、収入は第2号基本金引当特定資産取崩収入の減少等により5,924万3千円減少し、支出は施設関係支出の減少等により19億7,650万円減少した。

科目の内訳では、未完成学科の学年進行等により学生数が増加し、学生生徒等納付金収入は2,347万5千円の収入増となり、一方で新校舎の使用開始に伴う減価償却費増等により、教育研究経費支出は1億7,743万4千円の支出増となった。

事業活動収支は、事業活動収入計が103億7,274万9千円、事業活動支出計が83億1,849万6千円となり、基本金組入前当年度収支差額が20億5,425万3千円の収入超過となり、基本金組入後の当年度収支差額は3億6,463万1千円となった。

貸借対照表の資産の部合計は、前期末より40億597万2千円増加し541億5,900万1千円となった。また基本金は、第1号・第2号・第4号の基本金組入により15億6,389万8千円増加し、507億8,463万5千円となった。

平成31年3月31日現在において、資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産は、470億8,220万9千円である。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。

- 安東キャンパス図書館吸収式冷温水機更新工事費(2,032万円)
- 安東キャンパス7号館吸収冷温水機更新工事費(1,700万円)
- 安東キャンパスA棟防災センター火災受信器更新(1,490万円)
- 安東キャンパス大学付属幼稚園複合遊具設置工事費(737万円)
- 白島キャンパス中高校舎Ⅰ期建設工事費(18億3,774万円)
- 白島キャンパス中高新校舎什器及び機器備品整備費(1億7,639万円)
- 白島キャンパス境界フェンス設置工事費(3,792万円)
- 白島キャンパス短大付属幼稚園築山工事費(795万円)
- 白島キャンパス用地取得費(1億2,006万円)

今年度の寄付金収入 29,944千円の内訳は次のとおりである。

- 法人より 2件 15,010千円
- 個人より 425件 14,934千円

1.資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度増減
学生生徒等納付金収入	6,531,783	6,872,496	7,289,147	7,822,069	7,845,544	23,475
手数料収入	116,739	89,379	92,391	106,326	94,846	△ 11,480
寄付金収入	54,655	17,762	33,660	26,505	29,944	3,439
補助金収入	1,504,904	1,376,057	1,176,915	1,552,069	1,498,121	△ 53,948
国庫補助金収入	852,829	738,515	525,215	865,077	837,028	△ 28,049
地方公共団体補助金収入	651,575	637,042	650,000	685,592	660,693	△ 24,899
学術研究振興資金収入	500	500	1,700	1,400	0	△ 1,400
若手・女性研究者奨励金収入	0	0	0	0	400	400
資産売却収入	10,824,137	5,065,390	6,940,600	6,733,598	6,075,538	△ 658,060
付随事業・収益事業収入	78,156	85,157	87,681	94,947	87,211	△ 7,736
受取利息・配当金収入	874,084	444,671	468,132	520,280	531,060	10,780
雑収入	117,683	260,144	159,800	177,741	263,115	85,374
借入金等収入	0	2,700,000	0	0	2,000,000	2,000,000
前受金収入	1,283,284	1,372,248	1,486,965	1,221,142	1,289,604	68,462
その他の収入	217,328	3,323,233	1,371,940	3,264,821	1,209,224	△ 2,055,597
資金収入調整勘定	△ 1,686,813	△ 1,664,794	△ 1,487,012	△ 1,900,501	△ 1,364,453	536,048
小計	19,915,940	19,941,743	17,620,219	19,618,997	19,559,754	△ 59,243
前年度繰越支払資金	4,105,415	4,862,559	4,436,320	4,692,240	4,055,763	△ 636,477
収入の部合計	24,021,355	24,804,302	22,056,539	24,311,237	23,615,517	△ 695,720

支出の部	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度増減
人件費支出	3,950,337	4,254,335	4,459,146	4,545,329	4,675,722	130,393
教育研究経費支出	1,269,396	1,444,042	1,568,347	1,551,856	1,729,290	177,434
管理経費支出	397,448	352,853	435,455	426,729	398,749	△ 27,980
借入金等返済支出	0	0	0	0	150,000	150,000
施設関係支出	2,971,425	3,779,203	3,450,118	5,915,903	2,241,022	△ 3,674,881
設備関係支出	187,938	319,014	533,186	262,695	297,819	35,124
資産運用支出	10,374,319	10,149,996	6,891,219	7,583,146	8,779,720	1,196,574
その他の支出	28,946	104,329	114,471	78,285	81,745	3,460
資金支出調整勘定	△ 21,013	△ 35,790	△ 87,643	△ 108,469	△ 75,094	33,375
小計	19,158,796	20,367,982	17,364,299	20,255,474	18,278,973	△ 1,976,501
次年度繰越支払資金	4,862,559	4,436,320	4,692,240	4,055,763	5,336,544	1,280,781
支出の部合計	24,021,355	24,804,302	22,056,539	24,311,237	23,615,517	△ 695,720

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

2.事業活動収支計算書の推移

(単位:千円)

科 目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	6,531,783	6,872,496	7,289,147	7,822,069	7,845,544	23,475
		手数料	116,739	89,379	92,391	106,327	94,846	△ 11,481
		寄付金	54,655	14,762	33,660	12,505	29,944	17,439
		補助金	1,100,152	1,108,025	1,165,300	1,198,021	1,265,402	67,381
		国庫補助金	457,774	472,038	513,600	541,029	604,310	63,281
		地方公共団体補助金	641,878	635,487	650,000	655,592	660,692	5,100
		学術研究振興資金	500	500	1,700	1,400	0	△ 1,400
		若手・女性研究者奨励金	0	0	0	0	400	400
		付随事業収入	78,156	85,158	87,681	94,947	87,211	△ 7,736
		雑収入	142,528	277,959	207,725	178,364	265,242	86,878
	教育活動収入計	8,024,013	8,447,779	8,875,904	9,412,233	9,588,189	175,956	
	支事業の活動部	人件費	3,974,152	4,253,972	4,500,429	4,570,003	4,722,252	152,249
		教育研究経費	2,150,329	2,298,164	2,596,353	2,577,133	2,926,639	349,506
		管理経費	421,913	380,884	469,691	464,551	446,550	△ 18,001
		徴収不能額等	222	123	0	52	0	△ 52
教育活動支出計		6,546,616	6,933,143	7,566,473	7,611,739	8,095,441	483,702	
教育活動収支差額	1,477,397	1,514,636	1,309,431	1,800,494	1,492,748	△ 307,746		
教育活動外収支	収事業の活動部	受取利息・配当金	874,084	444,671	468,132	520,280	531,060	10,780
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	874,084	444,671	468,132	520,280	531,060	10,780
	支事業の活動部	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	874,084	444,671	468,132	520,280	531,060	10,780		
経常収支差額	2,351,481	1,959,307	1,777,563	2,320,774	2,023,808	△ 296,966		
特別収支	収事業の活動部	資産売却差額	800	1,111	121,158	70,849	15,162	△ 55,687
		その他の特別収入	410,738	277,555	17,726	371,297	238,338	△ 132,959
		特別収入計	411,538	278,666	138,884	442,146	253,500	△ 188,646
	支事業の活動部	資産処分差額	17,302	101,418	354,706	55,961	223,055	167,094
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	17,302	101,418	354,706	55,961	223,055	167,094
特別収支差額	394,236	177,248	△ 215,822	386,185	30,445	△ 355,740		
基本金組入前当年度収支差額	2,745,717	2,136,555	1,561,741	2,706,959	2,054,253	△ 652,706		
基本金組入額合計	△ 2,751,150	△ 1,241,559	△ 2,849,348	△ 3,887,351	△ 1,689,622	2,197,729		
当年度収支差額	△ 5,433	894,996	△ 1,287,607	△ 1,180,392	364,631	1,545,023		
前年度繰越収支差額	△ 2,933,281	△ 2,827,097	△ 1,911,571	△ 3,156,638	△ 4,192,780	△ 1,036,142		
基本金取崩額	111,617	20,530	42,540	144,250	125,723	△ 18,527		
翌年度繰越収支差額	△ 2,827,097	△ 1,911,571	△ 3,156,638	△ 4,192,780	△ 3,702,426	490,354		

(参考)

事業活動収入計	9,309,635	9,171,116	9,482,920	10,374,659	10,372,749	△ 1,910
事業活動支出計	6,563,918	7,034,561	7,921,179	7,667,700	8,318,496	650,796

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

3.貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部	科 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度 増減
固定資産		36,138,945	38,020,810	40,581,232	43,927,797	46,098,655	2,170,858
有形固定資産		21,691,904	24,840,881	27,584,542	32,675,207	33,779,726	1,104,519
土地		6,477,540	6,822,317	7,660,616	8,841,059	8,978,732	137,673
建物		11,582,973	11,049,431	15,249,451	16,423,194	19,707,977	3,284,783
その他の有形固定資産		3,631,391	6,969,133	4,674,475	7,410,954	5,093,017	△ 2,317,937
特定資産		14,064,403	12,951,647	12,957,140	11,218,746	12,291,032	1,072,286
その他の固定資産		382,638	228,282	39,550	33,844	27,897	△ 5,947
流動資産		4,945,935	7,988,165	7,076,556	6,225,232	8,060,346	1,835,114
現金預金		4,862,559	4,436,320	4,692,240	4,055,763	5,336,544	1,280,781
その他の流動資産		83,376	3,551,845	2,384,316	2,169,469	2,723,802	554,333
資産の部合計		41,084,880	46,008,975	47,657,788	50,153,029	54,159,001	4,005,972
負債の部							
固定負債		1,022,358	3,704,180	3,697,760	3,571,848	5,466,298	1,894,450
長期借入金		0	2,700,000	2,700,000	2,550,000	4,400,000	1,850,000
退職給与引当金		1,022,358	1,004,180	997,760	1,021,848	1,066,298	44,450
流動負債		1,439,819	1,545,537	1,639,030	1,553,224	1,610,494	57,270
短期借入金		0	0	0	150,000	150,000	0
前受金		1,283,284	1,372,248	1,486,965	1,221,142	1,289,605	68,463
その他の流動負債		156,535	173,289	152,065	182,082	170,889	△ 11,193
負債の部合計		2,462,177	5,249,717	5,336,790	5,125,072	7,076,792	1,951,720
純資産の部							
基本金の部							
第1号基本金		34,814,800	37,212,829	39,995,636	45,833,389	46,584,316	750,927
第2号基本金		6,200,000	5,000,000	5,000,000	2,861,348	3,670,319	808,971
第4号基本金		435,000	458,000	482,000	526,000	530,000	4,000
基本金の部合計		41,449,800	42,670,829	45,477,636	49,220,737	50,784,635	1,563,898
繰越収支差額の部							
翌年度繰越収支差額		△ 2,827,097	△ 1,911,571	△ 3,156,638	△ 4,192,780	△ 3,702,426	490,354
純資産の部合計		38,622,703	40,759,258	42,320,998	45,027,957	47,082,209	2,054,252
負債及び純資産の部合計		41,084,880	46,008,975	47,657,788	50,153,029	54,159,001	4,005,972

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

4. 貸借対照表関係比率の推移

財務比率	算式(×100%)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1 純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	94.0%	88.6%	88.8%	89.8%	86.9%
2 基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	97.8%	97.9%	98.1%	96.7%
3 固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	91.2%	85.5%	88.2%	90.4%	87.7%
4 流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	12.0%	17.4%	14.8%	12.4%	14.9%
5 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	343.5%	516.9%	431.8%	400.8%	500.5%
6 前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	378.9%	323.3%	315.6%	332.1%	413.8%
7 負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	6.4%	12.9%	12.6%	11.4%	15.0%

5. 事業活動収支計算書関係比率の推移

財務比率	算式(×100%)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1 事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	29.5%	23.3%	16.5%	26.1%	19.8%
2 学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	73.4%	77.3%	78.0%	78.8%	77.5%
3 補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	16.2%	15.0%	12.4%	15.0%	14.4%
4 人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	44.7%	47.8%	48.2%	46.0%	46.7%
5 教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	24.2%	25.8%	27.8%	25.9%	28.9%
6 基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	29.6%	13.5%	30.0%	37.5%	16.3%
7 人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.8%	61.9%	61.7%	58.4%	60.2%

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

6. 在学生数・教職員数の推移

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
在学生数 (単位:名)					
大学院	40	41	33	36	39
大学	3,859	4,115	4,440	4,753	4,944
短期大学	497	396	304	294	260
高等学校	703	728	763	780	785
中学校	644	618	579	570	577
小学校	486	487	484	485	487
短期大学付属幼稚園	187	190	203	197	205
大学付属幼稚園	207	208	195	211	197
計	6,623	6,783	7,001	7,326	7,494
教職員数 (単位:名)					
大学	495	525	572	606	624
短期大学	82	72	34	36	36
高等学校	67	66	69	74	73
中学校	53	51	49	50	54
小学校	41	44	42	45	45
短期大学付属幼稚園	21	22	23	24	25
大学付属幼稚園	22	23	23	26	25
その他	6	5	7	5	6
計	787	808	819	866	888

財務の概要

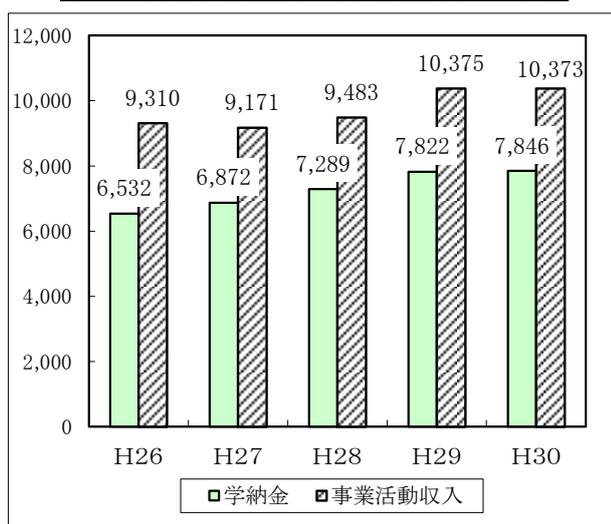
(5年間の財務 経年比較表)

(単位：百万円)

項目	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①学生生徒等納付金	6,532	6,872	7,289	7,822	7,846
②事業活動収入	9,310	9,171	9,483	10,375	10,373
③経常収入	8,898	8,892	9,344	9,933	10,119
④基本金組入額	△ 2,751	△ 1,242	△ 2,849	△ 3,887	△ 1,690
⑤事業活動支出	6,564	7,035	7,921	7,668	8,318
⑥教育研究経費	2,150	2,298	2,596	2,577	2,927
⑦有形固定資産	21,692	24,841	27,585	32,675	33,780
⑧総資産	41,085	46,009	47,658	50,153	54,159

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

学生生徒等納付金及び事業活動収入の推移

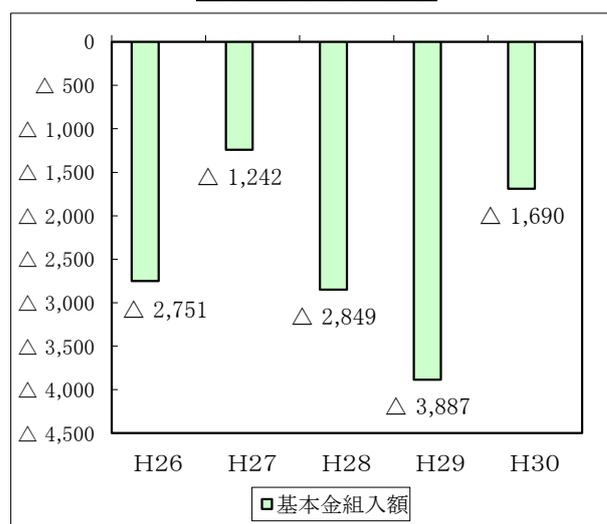


(%)

項目	H26	H27	H28	H29	H30
学生生徒等納付金比率	73.4	77.3	78.0	78.7	77.5

(学生生徒等納付金÷経常収入)

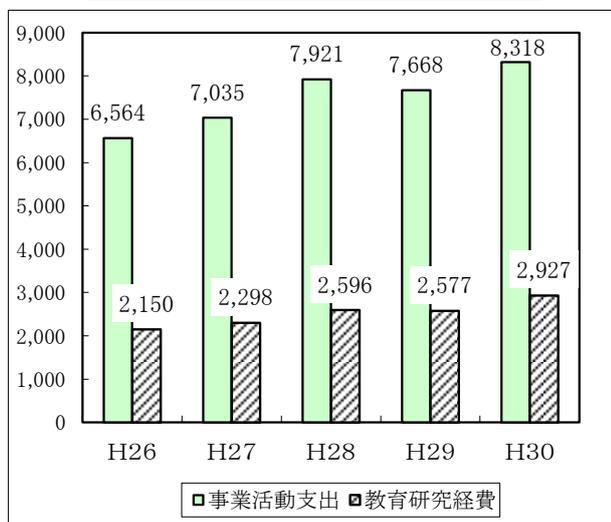
基本金組入額の推移



(%)

項目	H26	H27	H28	H29	H30
基本金組入率	29.5	13.5	30.0	37.5	16.3

事業活動支出及び教育研究経費の推移

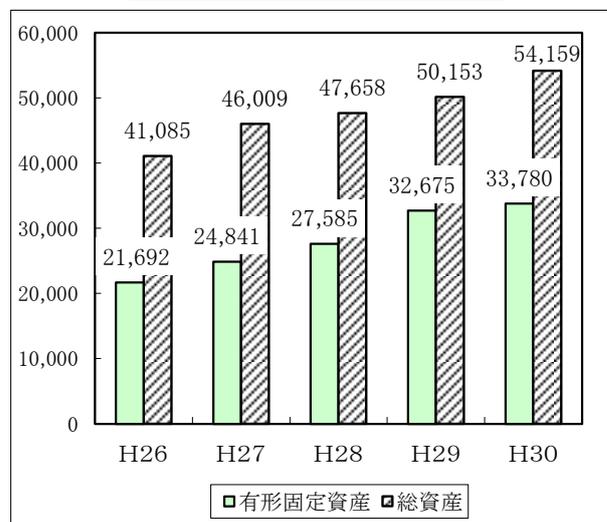


(%)

項目	H26	H27	H28	H29	H30
事業活動支出比率	70.5	76.7	83.5	73.9	80.2
教育研究経費比率	24.2	25.8	27.8	25.9	28.9

(教育研究経費÷経常収入)

総資産及び有形固定資産の推移



(%)

項目	H26	H27	H28	H29	H30
有形固定資産構成比率	52.8	54.0	57.9	65.2	62.4